

生神女讃詞

5調

月曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、 いまも い つ も 世 世 にアミン



我幼き時より罪を犯してやめず 我が智恵を くら まし



心を悪に 習わし た り 今我 なげ きて 我が甚だしき



迷いと我が無知と 悪しき習わし 及び ^{たましい} 霊 の滅びのために 泣く



女宰よ、我亡ぶる者を 棄てずして 我を 憐れ み て



爾の転達 をもって 我を諸々の誘い及び欲より助けた ま - え



我老ゆるに 及 びて も 神の前に 痛-かい せんためな-り

生神女讃詞

5調

火曜日木曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまもいっ とも 世 世 にアミン



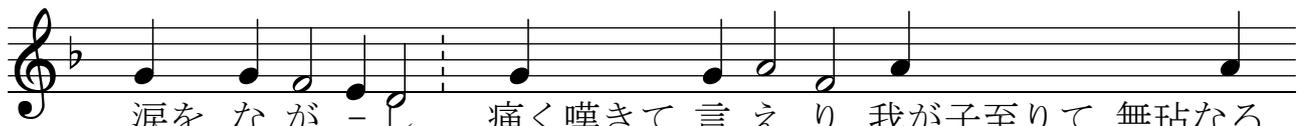
罪なき吾が ハリストスよ 爾は衆人に救いを獲しめんと 欲 して



我等の為に 贖しよくざいとして 値の大なる爾の至りて 潔いさぎよき 血を



甘んじて与え たま えり 故に爾の母は爾が釘せられしを見て



涙を な が - し 痛く嘆きて言 えり 我が子至りて 無玷なる



こひつじ 暮れざる ひかりよ 爾の 尊き 血にて



世界を 贖あがなわんと 欲 して 如何ぞ我が目より 隠れ た - る



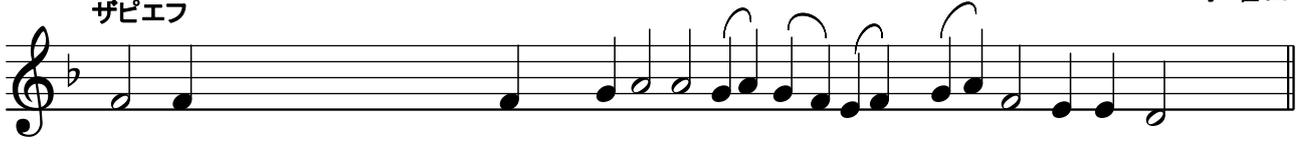
救世主よ、衆人に光照と平安と大いなるあわれみとを あたえたま え

生神女讃詞

5 調

水曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、 いまもい—つ—も— 世—世— にアミン



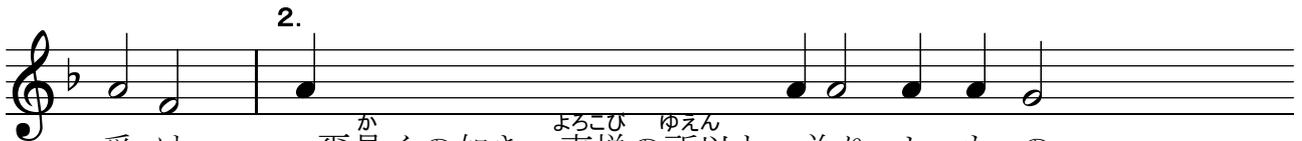
よろこべよ 諸預言者の 封印 — 及び神の声なる使徒等の宣伝たる



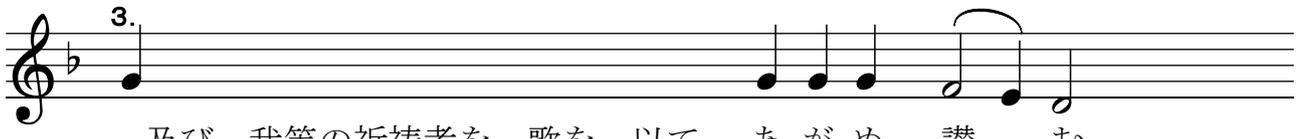
いさぎよ
潔きもの—や 爾は実に真実なる かみ 身を取りしものよ、



3.
智恵とことばとに超えて生み たまえり。 我等彼に由りて当初の良産を



2.
受け、 爾是くの如き 喜びの所以と 為りしもの

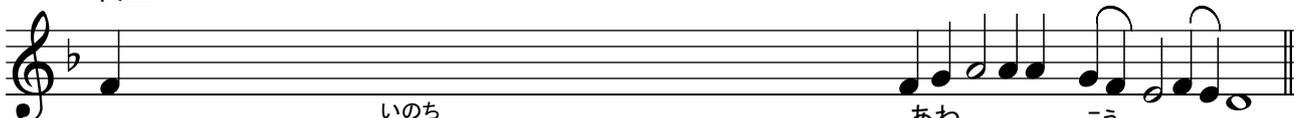


3.
及び 我等の祈祷者を 歌を 以て あがめ 讃—む。



1.
至浄なるものよ、 我等は爾の恩恵に富ま されて

終止



いのち
爾の子より 永遠の生命を得て、豊かに其の大なる憐れみを 蒙 る

生神女讃詞

5調

火曜日木曜日

ザピエフ



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまもいっ とも 世 世 にアミン



罪なき吾が ハリストスよ 爾は衆人に救いを獲しめんと 欲 して



我等の為に 贖しよくざいと して 値の大なる爾の至りて 潔いさぎよき 血を



甘んじて与え たま えり 故に爾の母は爾が釘せられしを見て



涙を な が - し 痛く嘆きて 言 えり 我が子至りて 無玷なる



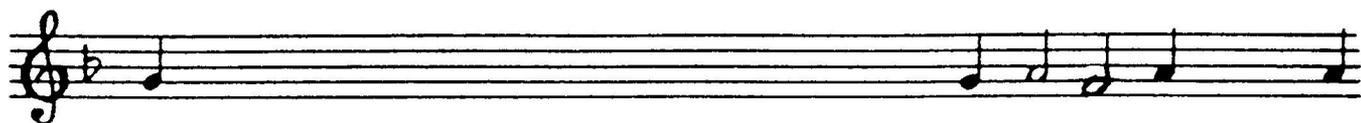
こひつじ 暮れざる ひかりよ 爾の 尊き 血にて



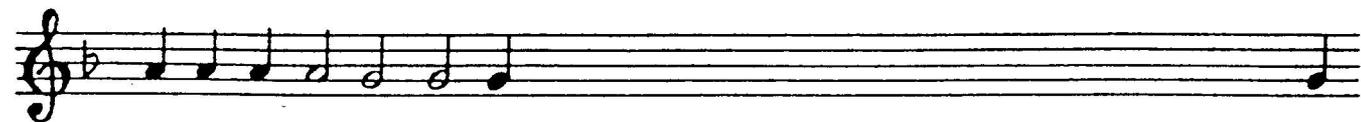
世界を 贖あがなわんと 欲 して 如何ぞ我が目より 隠れ た - る



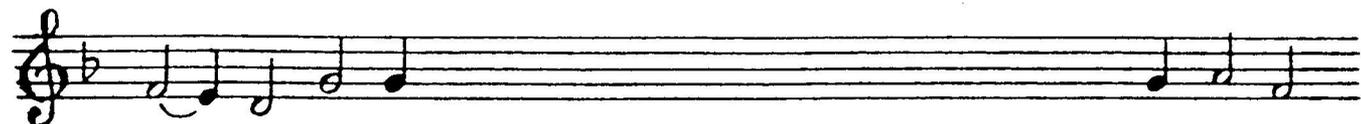
救世主よ、衆人に光照と平安と大いなるあわれみとを あたえたま え



主や汝によぶすみやかに我れにいたりたまえ主やわれに



ききたまえ主や汝に呼ぶすみやかに我れにいたりた



ま えなんじに呼ぶとき我が祈りの声をいれたまえ



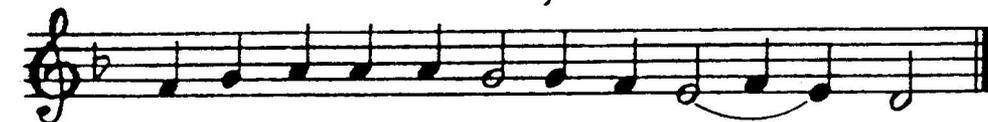
主やわれにききたま えねがわくは我がいのりは



香炉コウロの香カオりのごとく汝がかんばせの前にのぼり



我が手をあぐるは暮クれのまつりのごとくいれられん



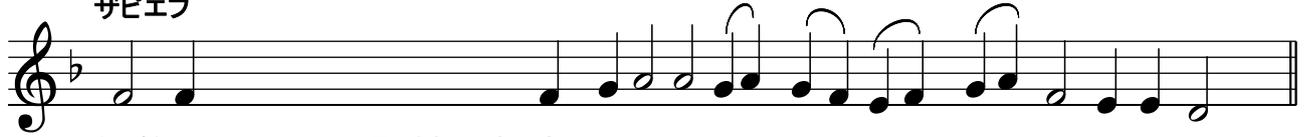
主やわれにききたま え

生神女讃詞

5 調

日曜日

ザピエフ



光栄は父と子と聖神に帰す、いまもい つ - 世 世 にアミン



潔き ものよ 爾は実にヘルビムの 宝座 にして



諸天使に超ゆる者 な - り 蓋 神の言は我等の形を新たに



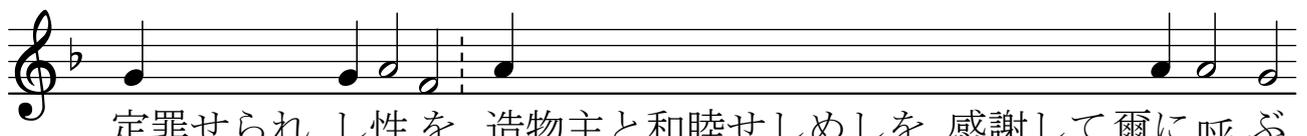
せんと欲して 爾の内に入りたり 身を取りて 爾より 出でて



仁慈なるに依って 我等の為に十字架 及び 苦しみを 受け



神なるに由りて 復活をたまえり 故に我等 爾が我等の



定罪せられ し性を 造物主と和睦せしめしを 感謝して爾に呼ぶ



爾の祈禱によりて 我等に諸罪の赦しと



あわれみとを あたえ たま - え